第10号
（2月）
2014年2月1日

七里ヶ丘こども若者支援研究所

それが社会参加だ

京都嵯峨野三千院

鎌倉市七里ガ浜東2－31－12
09072124055
qq5656r9@happytown.ocn.ne.jp
発行編集責任者　滝田衛

講演会＆演奏会 世代を超え、つながる　こども若者の時代へ

いじめない 共に生きる学校から社会へ

篠原宏明・真紀さん（ジェントルハートプロジェクト理事）と

永野亜由美＆小幡沙央里さん（20代の若者会員）が語る

運営の若手スタッフ　in新年会右より川辺（記録）　小幡（コーディネーター）　永野（対談）＆滝田？

3年前に自死されたご子息真矢（まさや）さんを語り、彼の友人たちと歩み続ける篠原ご夫妻を、川崎からお招きします。横須賀では初めての講演です。僕は改めて「いじめに向き合う、結論を急がず一つの事実に向き合うこと」を篠原さんに教えられました。こども若者応援団、20代の若者がこどもと大人をつないで篠原さんと向き合い、真矢さんの思いを紡ぎます。音楽演奏と歌声、参加者の皆さんと最高の時を刻みたいと願っています。“いじめない”“共に生きる”学校から社会を実現するために。会員川辺順子さんのメーセージを紹介します。『篠原さんの川崎での講演「こどもの声に耳を」の資料を拝見しました。きっとお話しされること自体、どんなにかお辛いことだとお察しできます。その中で講演された思い、私も子どもを持つ親として、とても心が痛みました。子供の思いに耳を傾けて、きちんと受け止めることの大切さを感じます。いじめがなくなること、そしてこんな悲しいことが2度と起きないことを切に願い、今度の講演会に多くの方に参加いただけるようにと思います。』※同封チラシでお申し込みください

連載すぐそこにあること2　「ひきこもりと恋愛について」

新外秀浩33歳　某通信制大学在籍中　※2月号より「すぐそこにあること」のタイトルで連載執筆いただきます。通算4回

昨年のクリスマスも恋人がいない寂しー日々を送った。最近ネットである程度交流を深めオフ会に参加しない？との声もあったが、もちろん断った。なぜならひきこもり＆精神疾患を抱えてる僕はまず軽度のパニック障害からバスに乗れない。電車にも乗れない。さらに嘔吐障害だから外食もできない。こんな僕だからオフ会なんて120％無理。またその先に待ってるのかもしれない出会いを求めるなんて不可能である。33年も恋人がいないなんて絶望それは死を意識させるほどの苦悩である。また、4歳も離れた弟が恋人を家につれてきた日のことは、6年以上も前なのに怒りと嫉妬の入り混じった感情を克明に覚えてる。これはほんとに切実な問題であると思う。さらに、昨年の9月、講演で話をした岡本さんも冊子1号の冒頭にひきこもりと恋愛について書いており、ひどく共感した。僕も、もちろん就労も重要だと思うけどそれ以上に10代20代の主な関心事は恋愛中心だと思うのでこの問題、つまりひきこもりと呼ばれる人々の男女の出会いはどうやって生まれるのか。それはもちろん各々の個人的問題であり、同時にそれは社会問題であると思う。

今、僕は就労に向けて多くの機関で相談に乗ってもらってる。しかし、ひきこもりの人々の恋愛相談を専門にしてる機関は僕の知る限り無い。（し、この手の問題は照れくささも手伝ってほんとに誰に相談したらいいのか全く分からない。しかも、相談したところで引きもこってる限り解決策もなさそーだし。）でも現在のネット環境では外に出なくても交流のツールは多くそのツールを使って出会いの場を作ることは非現実でじゃないはず。深刻な問題であると同時に逆手に取れば好きな人が出来ればそれはものすごいエネルギーになり一気にひきこもり生活からの脱出も可能であると思う。こう書いて無責任だがこれを読んでもらってる誰か恋愛相談所の立ち上げお願いします。と思うのは僕だけじゃないはず。

コラム風　　大寒　北風が冷たく日本海側は大雪。インフルエンザ、ノロ等が猛威を振う。やがて花粉の季節。現代人は菌・バイキン＆異物に敏感となった？　清潔感の先の潔癖症の課題も出てくる。手洗いや除菌が日常化する。企業もマスコミも煽る、消費社会。僕は小学校まで、蟯虫や回虫を体の中で飼って？いた。「きたな～い」と嫌がられるが、事実。以前TVで北欧のアレルギー対策をやっていた。牛舎の近くで生活し、ふんを庭にばらまくとアレルギーに強くなる…そんなドキュメンタリーだった記憶がある。“完全”に菌を排除する、その発想に危うさを感じる。むしろ自然界の人間として、自然と共存を考えながら、有効な手立てを打つことが大事ではと思う。“最低限”の予防はするが、風邪をひき腹痛を感じたら緊急避難、休む。風を読み、風まかせ、とはいかないのだろうかと悩む。

山形
かみのやま温泉

息子は私の宝物　寄贈：歌文集「息子と乾杯」 市田はなさん著

エッセイ「母親失格」　病弱だった私は三十歳を超えた昭和四十五年十月、四歳の子のいる夫、市田正幸に嫁いできた。夫の両親、私たち夫婦、そして息子の五人家族で新生活が始まった。両親は熱心なキリスト教信者であった。夫は誠実な人で、息子を市田家の跡取りとして大切に育て、息子が「ほしい」と言う前になんでも買い与え、目に入れても痛くないほど、宝物のように愛しんでいた。結婚して間もない頃、私と息子が散歩していると、隣の母子連れに会った。突然息子は、「根本君にはどうしてママがいるの？」と問う。私は、はっとして、「あなたにもママがいるでしょ」と強く抱きしめ、母親は決して離婚してはならない、死んではいけない！　と心で叫んでいた。そして息子は、幼稚園、小学校、高校に入っていじめに遭い、不登校という形で奈落の底に突き落とされ、苦しい日々が始まった。

自室にこもり、ドアをノックすると、「あっちへ行け」と怒鳴る。人に会うことを避け、食事を取らず、点滴で一命が助かったこともあった。ようやく外出するようになっても、いっときも私の側から離れようとしない。また、時にはそんな状況とは一変して、一緒に出かけても姿が見えなくなってしまう。その間、昭和五十七年に舅が逝き、五十九年に姑も旅立った。続いて平成九年、夫急逝。沈痛の思いの子と母の悶々とした日々が続いた。

平成十八年、ある日、民生委員の方が、「NPO法人アンガージュマン・よこすか」（不登校、ひきこもりの若者の支援、社会復帰の手助けをする市民団体）を紹介してくれた。藁をも?む思いで電話すると、「いつでもいらしてください」と言われ、ほっと安心した一瞬が、今でも私の脳裏から消えない。それから三年間、親子共々の教育の修行が始まった。担当の先生は、温かく優しく迎えて下さるので、いつしか息子は、「アンガージュマン」に通うのが楽しくなってきたようであった。関わってくださるスタッフの方々のたゆまぬ努力の結果、一人で行けるようになり、現在、研修生としての学びを務めつつ、新たな社会への第一歩を踏み出そうとしている。（中略）今、心優しい息子に包まれ、果たさなければならない役割を大切にして、一日一日を過ごしている。　私の好きな歌一首”あかあかと一本の道とほりたりたまきはる我が命なりけり　斉藤茂吉”　息子と共に喜びも苦しみも共に生きてきて、私の半生を振り返ったとき、息子に足りない母であったことを申し訳ない心で、この文章をまとめた。現在、息子は私の宝物である。毎日、感謝の心でいっぱいである。（平成二十四年四月）

書店で働くご子息

短歌集より

「降り立ちて海原眺む横須賀に三年通ひし日々思わるる」
「主婦業の再び戻れる如きかな五時に起き汝を送り出す日々」
「汝の打つうどんに今宵かぎりなく楽しみ湧くなり二人の夕餉」
「重き荷を背負ひ来りて四十年紐切れしごとき解放感いま」
「『くじけないで』トヨさんの本プレゼントされ心やさしき息子に乾杯」
「父よ夫よ見守り給へ息子けふ見習ひの職場に初出勤す」
「終電に帰り来し息子漸くに社会に馴れしか逞しく見ゆ」
「夜な夜なを不安に駆られし幾年かやうやく息子の自立目に見ゆ」

解説　1月15日にお手紙と書籍を頂いた。2006年ご子息の相談で足を運ばれ、彼は半年後上町に登場し博物館見学からカウンセリングを始めた。3年後はるかぜ書店で就労研修を始め、2012年秋アンガージュマンを卒業した。今ボランティアとしてアンガージュマンに関わり、母子で穏やかな生活を送る。頂いたお手紙を紹介する。「（前略）今、数々の思いが脳裏を駆け巡り、まがりなりに今日、息子があることは、長い年月　滝田さんが真剣に、細心に、取り組んでくださった賜ものと感謝の心でいっぱいでございます。ほんとうにありがとうございました。（中略）私自身も救われました。まさに『一隅を照らす』方でいらっしゃいます。どうぞ御身体をお大切になされます様に心から祈念申しげております。尚、愚作ですが滝田さんに読んでいただけましたら・・・嬉しく思い失礼をかえりみず敢えてお送りさせていただきました。お許しくださいませ。」　寡聞なお手紙に恐縮した。歌文集はエッセイ7編、短歌17編120首、全82ページの麗しい著書。序を寄せられた黒木美千代先生(NHK学園講師)は「…柱となるのは、息子さんを詠まれた歌です。…作者の心情が溢れ、…息子さんを思う作者の熱い心が読者の胸を打ちます。…もう一つ、…五官を全開にして対象を捉えに行っておられる、作者の叙景歌です。感覚がふるえるように繊細です。」と評されている。継母の市田さんは、43年生き辛さを背負うご子息に寄り添い誠実に生きてこられた。また、ふるさと群馬県沼田を、結婚後の鎌倉を愛おしみ自然と共に過ごしてきた。ご子息の生き辛さを自己責任、母親失格と背負われる姿に「失格ではありませんよ」と喉まで出かかり…あえて、その深き親の愛に首を垂れるしかないと滝田は感じた。一つの時代の真実、世代を超え人間を生きていく親の愛を，市田さんにお教え頂き感謝します。

それぞれの風コーナー　何はともあれ一番の驚きは、あんなに若く優秀なスタッフをお呼びできるなんて、まさに滝田マジックとしか言いようがありません。本当にうれしい、日本の将来も明るいぞと期待感で一杯の充実した二時間を過ごさせて頂きました。お一人おひとりの体験、お話がまさに「事実は小説より奇なり」で、もっと詳しくお話を聞きたいと思いました。（応援団会議を終えて　高橋孝子さん）

1月こども若者応援団会議

相談は右の日程でご連絡ください。時間は10時～16時でお願いします。訪問は日程調整します、往復の時間も必要です、ご相談ください(土曜日も訪問は受け付けたいと思います)。応援団会議は横須賀市市民活動センター午後2時～4時です。ご参加を

2月の開所日程(駐車場あります)			
3日(月)	相談 予約済み	17日(月)	休業　※私用
6日(木)	相談	20日(木)	相談
10日(月)	相談　予約済み	24日(月)	相談
13日(木)	休業　※他事業	27日(木)	pm2応援団会議